

(5)

新日鹽水俱工場

西田榮一氏

ある有機水銀の摂取にあるよう
だ。どんな経導で魚体に入ったか
は明らかになっていないが、この
たの漁民ははちまき姿で新田ダム
堰上場へ押しかけ、会社側は善後
処置に頭を悩ましている。工場側
の責任者西田栄二工場長は騒動を

願
つた

○…何よりもまず新聞は公正、正

活動で一方的に話をきいて報道することはつしんでいたがききたいことの二つ。必ず両者の主張をきいたうえで、正当な判断のもとに自傷をもって望々と書いてもらいたい。

○…もちろん新聞は一つのすぐれた商品であり、読者の興味をひく

はならないことではないか。いっ
ぱう記者自身の眼からすればと
て足らぬと思われるような小な
記事でも読者にとっては、社会的
に重要だと思われることもあるの
で、時によってはなんごでも
紙面を大きくさいていたがきた
い。

ないと思うが、自分たちのPRの
ためにいわゆる新聞を濫用するこ
とも考えられるから、記者はそん
なことも十分考慮してウカツに臨
むのではないことが先決問題。常に
プライドを持って確固たる自信の
もとに取材されるよう。もちろん
濫用のもとに新聞を利用するのは

もに、とくに医学、化学、工業などの問題については、いろいろと複雑でわかりにくい用語なり、問題が多く、スピンドをセッターとする新聞であつてみれば、時間に制約されることも多いが、正確を期するためには遺憾なく当事者側に聞いていかなければ正しい報

一方的にならぬよう

報道陣の奮闘も大へん

確であれと希望します。つまり、毎日の新聞に掲載される政治、経済、社会、文化などあらゆる面の記事の取扱へは、読者の立場からいって一個の社会問題を扱ったものでも見方が各自それぞれ異なっており、とりよせようとしては、余蘊なく効果果をきたすことがある。取材

ように記事を書き、人々をひきつける見出しをつけ、紙面を派手にすることも新聞人としての常識だ。ところが、記者と読者の感覚は少々ちがっているところがあり、社会におよぼす影響がいかん重大であるかを考えず、ただ安易な興味本位の新聞をつくることは真しきまね

○…記事、とくに見出しについて望みたいことは内容をセブンセシヨナルに扱ってもらいたくないことです。マスコミの威力というものは絶対的なものであるから、新聞はその辺のところが慎重にやっていたがきた。

○…いまの新聞には偏見はあまり

ら話へ別だが……はじめておたやかな話し合ひといつてゐることもあつた。あそこでは激烈なものとなり、取捨つかない状態となることもあり、そういう状態のときの記事に往々にして暗喩があることも考えられるので、正当な判断のもとに取材活動されるよう希望するのである。

い、そのときは随分大層な事でも聞くと
も、あつ旋に當る人々、ももちろ
ん、腐敗わかつたぬ努力ではあつた
が、それにもましてよくまあ、あ
れだけ奮闘されたものだと思ひし
てゐる次第です。